

「福祉のしゃべり場」報告 Zoomを使ってお喋りしました！

第6回：2020年9月5日（土）13：30～15：00

＜コロナ禍での仕事や生活 不安な事 取り組んでいる事＞ 参加者10名

- * 感染対策の現状を互いにきき不安が和らいだ人もいました。
- * 対策への協力・理解が難しい利用者に必要なサービスを提供するため、第一波時は大変不安を抱いたが、情報を得、自分の取るべき対策や行動が分かってきた時点でペースがつかめてきた。
- * 利用対象者がウイルス扱いを受けている感覚や孤独感も起きやすいと感じ、言葉の使い方や非言語コミュニケーションが必要と気づいて実行している。
- * 職場と自宅の往来のみで人との会話が減っているため、他施設の対策や人の思いを聞くことができ安心

第7回：2020年12月5日（土）13：30～15：00

＜なんでもしゃべろう！しゃべり場望年会 理想と現実 コロナ禍にあって＞ 参加者10名

- * セルフタッピングタッチで心と体ほぐし。
- * 日々目の前のことをひとつひとつ確実にしてゆくことで精いっぱいな日常。
- * 認知症対応型デイサービスでは新規利用希望が多く自分たちの仕事は必要とされている働きだと実感。この現状を社会に知ってほしい。
- * ボランティアとして施設とかかわってきたが、現状などがわからないと気持ちが離れてしまい、コロナ後繋がっていただけるか不安・・・などなど有意義で話したりないくらいでした。

ZOOM参加が叶わない人も多く、その方々には簡単な報告をさせていただきます。

次回「第8回 福祉のしゃべり場」特別企画「神経難病ALSの利用者さんの最期を通して考えた事」

2021年3月6日（土）13：30～15：00 Zoomでの開催予定です！

参加ご希望の方には、HP お問い合わせのページからお申し込みください。

★5月頃には、YWCA 会館にて対面でのしゃべり場をと、願っています。

会員交流広場 Salon de Y Y

免疫力を高めコロナウイルスの感染を未然に防ぐために簡単にできる「温活」のご紹介

*好きな飲み物は？ 「ホットコーヒー・紅茶・緑茶・麦茶・ソフトドリンク・炭酸水・アルコールなどでは？」
上記の飲み物を飲んだ後で、トイレが近くなった経験はありませんか。これらの飲み物の全てが体を冷やす原因となります。こんな時は、熱いお湯を飲みながら梅干を食べてみましょう。陰性に傾いているからだ（緩んでいる）が梅干・お湯を飲むことで、陽性に傾き（からだは締まり）冷えを改善してくれます。体は、食べ物でできている♡

会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000 円/年 賛助会員 一口 10,000 円/年 団体会員 20,000 円/年

◆株式会社 ゆうちよ振替口座 記号 10170 番号 80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義 特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 大庭 幸

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号東京YWCA会館216室

TEL・FAX 03-6273-7134

新HP（お引越ししました）<http://ywca-hssc.org/> 東京YWCAヒューマン で検索

2020年12月25日～2021年1月6日 冬季休暇をいただきます。

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、1月、2月テレワークを進めていく予定です。

編集後記：今回の会報は少し気が早いお正月のような和の感じにしてみました。福がいっぱい！コロナ退散！の願いを込めました。 Eriko



特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します

21号
2020年12月

理事会のご報告

特定非営利活動法人東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター 理事長 田島 誠一

10月23日（金）、理事監事全員が出席し（理事一人はリモート参加）東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター 第28回理事会を開催しました。今年度上半期の事業報告・会計実績報告を受け意見交換をしました。新型コロナウイルス流行により、3月から4月にかけて職員の休業を実施することから2020年度は幕が開きました。波乱の幕開けでしたが、その後はほぼ順調に推移することができています。2011年4月に発足した当法人は、創立後10年目に入りました。これまでの取り組みをまとめ、今後の法人の進むべき方向を検討していく1年として節目の年になりました。これまでの歩みのうえに、引き続き法人の理念・使命の実現に向け高齢者、障害者福祉に加えて、こども福祉分野を含めた事業を引き続き展開してきています。以下簡単に課題別に報告事項の概要をお伝えします。

【講師派遣事業】新型コロナの影響を受け、4月から開始する新規研修の中止がありましたが、これまで継続研修をしている法人の2020年度の研修が夏以降スタートしました。加えて新規の研修も始まりました。感染予防のため集合研修が難しい場合もありますが、オンライン研修の導入など「正しく恐れて、適切な対応」を心がけています。

【東京都保育士等キャリアアップ研修】年間13回実施予定のうち上半期で7回を終了しました。「三密」を避けるため受講者は少人数ですが、体調管理や会場設営に工夫をし、安全に開催できています。

【福祉啓発事業】「福祉のしゃべり場」はオンラインによる開催とすることで、参加しやすい環境を作り取り組んでいます。

事業の大きな柱になっている保育士等キャリアアップ研修は、研修の進捗に伴い将来縮小することが考えられます。法人創設以来続けてきた講師派遣事業を充実していくことが大切です。小規模施設に対し、連携による階層別研修を提案するなどしてきましたが、引き続き注力していきます。

新型コロナの収束はまだまだ先になりそうですが、人と人とのつながりを大切に、適切な対応を取りながら使命を果たしていきたいと思っております。



東京都保育士等キャリアアップ研修

感染予防を図り、対面型の研修成果を最大限引き出すために8つの対策を実施した。

1. 飛沫感染予防

- 1) 飛沫感染予防のため新規に備品を購入し対策を立てる。
 - ① アクリル板（研修会場に設置。受付時、講義、グループディスカッション時の飛沫感染を防ぐ。）
 - ② 講師、職員用マウスガード（表情が見え、会話が聞こえやすい。）
 - ③ 扇風機とサーキュレーターを設置（エアロゾルへの対応のため空気の流れを作る。）
- 2) 受講者には、マスクの着用を受講の条件とした。
- 3) 窓、ドアを開けて換気に努める。

2. 接触感染予防

手洗いとアルコール消毒を励行。（研修会場入り口に消毒液を常備）
 文房具類（マジック・ポストイット等）を共有せず個別に準備。
 グループ毎にアルコール消毒液・ティッシュペーパーを配置し、
 いつでも消毒が行える。



マイク（グループに1本マイクを準備し、使用毎にアルコール消毒をする）
 毎回研修終了後、アルコールにて机、アクリルボード・筆記具・マイク等の
 消毒を徹底



窓・ドアを開け、サーキュレーターと2台の扇風機を使用し換気する

3. 受講者・講師・スタッフの健康チェック

研修参加者には受講10日前から健康チェック表の記入を依頼。
 講師・スタッフも同様に行い、同居家族の健康チェックも併せて行った。
 研修初日は、提出された健康チェック表を確認し、体温測定後受講許可とする。

4. 研修会場での密集を避けるため、収容人数の3分の1程度として開催した。

5. 保育士等キャリアアップ研修では、グループディスカッションを多用しながら学びを深めていく研修であるため、グループディスカッションを安全に行うための工夫を検討した。グループ毎の机の配置の工夫・アクリル板の活用などにより、ディスカッション時の飛沫感染予防を図った。

6. 研修終了時のアンケートに感染予防についての項目を加えて、受講者の不安や意向の把握に努め、受講者の意見を参考に改善につなげた。

7. 上記の取り組みが効果を発揮するためには受講者全員の協力が必要であり、全員で感染予防に取り組むための意識を喚起できるよう研修前オリエンテーションを実施した。

研修終了後、感染防止対策

についてアンケートを実施。

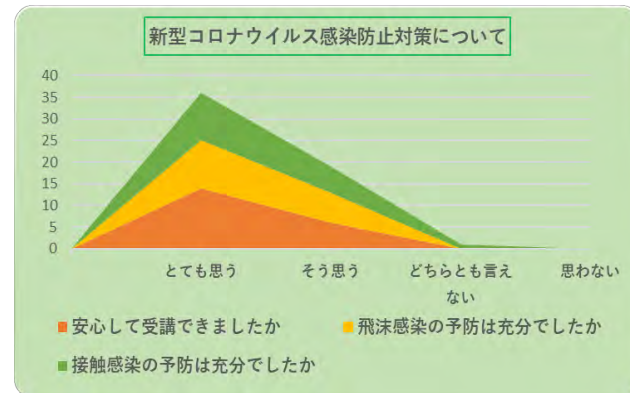
受講者の意見を活かし研修環境を改善している。

アンケートでは約9割強の受講者が「安心して受講できた」と回答している。



アクリル板越しのグループディスカッション

保護者支援・子育て支援研修 10月29日～31日 20名受講
 アンケート回答率 100%



講師派遣研修

講師派遣研修では、「一方的な講義に終わらない双方向コミュニケーション」を念頭に取り組んできた。現在はオンライン研修を2か所で実施している。

1. オンライン研修のメリットとデメリットを今後活用するための課題など検証していく。

メリット 集合せずに行えるため受講しやすい。

オンライン研修を録画することでいつでも視聴することができ、受講者の都合の良い時間に繰り返し確認でき知識の定着が図りやすい。試験対策などには、オンライン研修は大変優れている。

デメリット 当法人の研修では、「グループディスカッションを多用し研修を進めることで、メンバー相互の気づきと学びの共有」を目指してきたがこの点が一番難しい。画面研修で出会うだけのメンバーであるため関係を築いていくことが課題となる。対面研修では、全体のグループの動きを見ながら、講師がその都度声掛けを行い議論が深まるよう調整していた。また他のグループの会話が自然に聞こえる中で、自分たちの方向性など修正することができたが、オンラインでは難しい。

2. 研修に臨む職員のモチベーションを高める工夫

厳しい業務の中、研修参加の負担が増えることにより、研修への参加を負担に感じてしまうことが心配。職員一人ひとりの状況への理解、スーパーバイザーとの連携や研修時の様子の確認、振り返りシートの記載内容を確認しながらモチベーションが高まる支援を進めている。

3. 講師間の連携

継続研修は複数の講師が担当し、チームで取り組むという強みを生かし担当講師をチームで支えるために複数の講師が協力を惜しまず、オンライン研修のリハーサルに進んで参加している。課題の共有を図り研修を進めている。

オンライン研修を実施している講師からの感想

厳しい業務の中、受講者が仲間と学んでいるという実感を持たせたかが気になります。仲間とのワークでの気づきを得るというスタイルをどうしたらリモートでも効果的にできるか試行錯誤です。対面の空気感の大切さも実感しました。（徳森講師）

新刊紹介

「子どもを守る仕事」 佐藤優・遠藤久江・池上和子著

子どものいのちと生活を守る仕事について、鼎談を通し、社会・家庭の状況、児童福祉法の重要性、日本の児童福祉が歩んできた道を具体的に知ることができます。

歴史の中で起こる制度の変化と現状の課題、今後の示唆が書かれています。時代が変わろうとも、大事なことは目の前の子どもたちに愛のまなざしをもって見守り、実行する仕事であること。そして、経験したことだけを土台に子どもと向き合うことの愚かさ、知識によって、わかったふりをしてしまうことの愚かさを教えてください。

保育士・教員・里親・児童養護施設職員・子どもにかかわる専門職、地域活動者など実践者におすすめの本です。

未来を考えたい人にもお勧めです。（NPO 理事 蛸原）

子どもを守る仕事

佐藤優 Sato Masaru 遠藤久江 Endo Hisami
 池上和子 Ikegami Kazuko

★ちくまプリマー新書 361

ちくまプリマー新書 定価 880円＋税
 著者割引で販売中 NPO までご連絡下さい